

2 . 知的障害者の状況

(1) 基本的な属性

性別、年齢

あなたは男性ですか、女性ですか。また、いま、おいくつですか。

対象者の性別は、男性が 60.5%、女性が 38.1%となっている。

18歳未満が約3割(31.1%)を占めており、平均年齢は27.8歳である。年齢を性別にみると、平均年齢は男性25.6歳、女性31.2歳と、男性に比べて女性が5.6歳高い。

対象者の性別

	N	男性	女性	無回答
TOTAL	354	60.5	38.1	1.4

対象者の年齢

	N	0-17歳	18-39歳	40-64歳	65歳以上	無回答	平均
TOTAL	354	31.1	44.6	19.2	2.3	2.8	27.8歳
男性	214	35.5	45.3	15.0	1.4	2.8	25.6歳
女性	135	25.2	43.7	26.7	3.7	0.7	31.2歳

暮らしている場所

いま、どこで暮らしていますか。(は1つ)

全体で見ると約9割(87.3%)の対象者は「自宅で暮らしている」が、「18~39歳」の9.5%、「40~64歳」の14.7%は「福祉施設に入所している」状況である。

暮らしている場所

	N	自宅で暮らしている	病院に入院している	福祉施設に入所している	その他	無回答
TOTAL	354	87.3	2.3	8.2	2.0	0.3
0-17歳	110	99.1	0.9	-	-	-
18-39歳	158	88.0	0.6	9.5	1.9	-
40-64歳	68	75.0	5.9	14.7	4.4	-
65歳以上	8	50.0	25.0	25.0	-	-

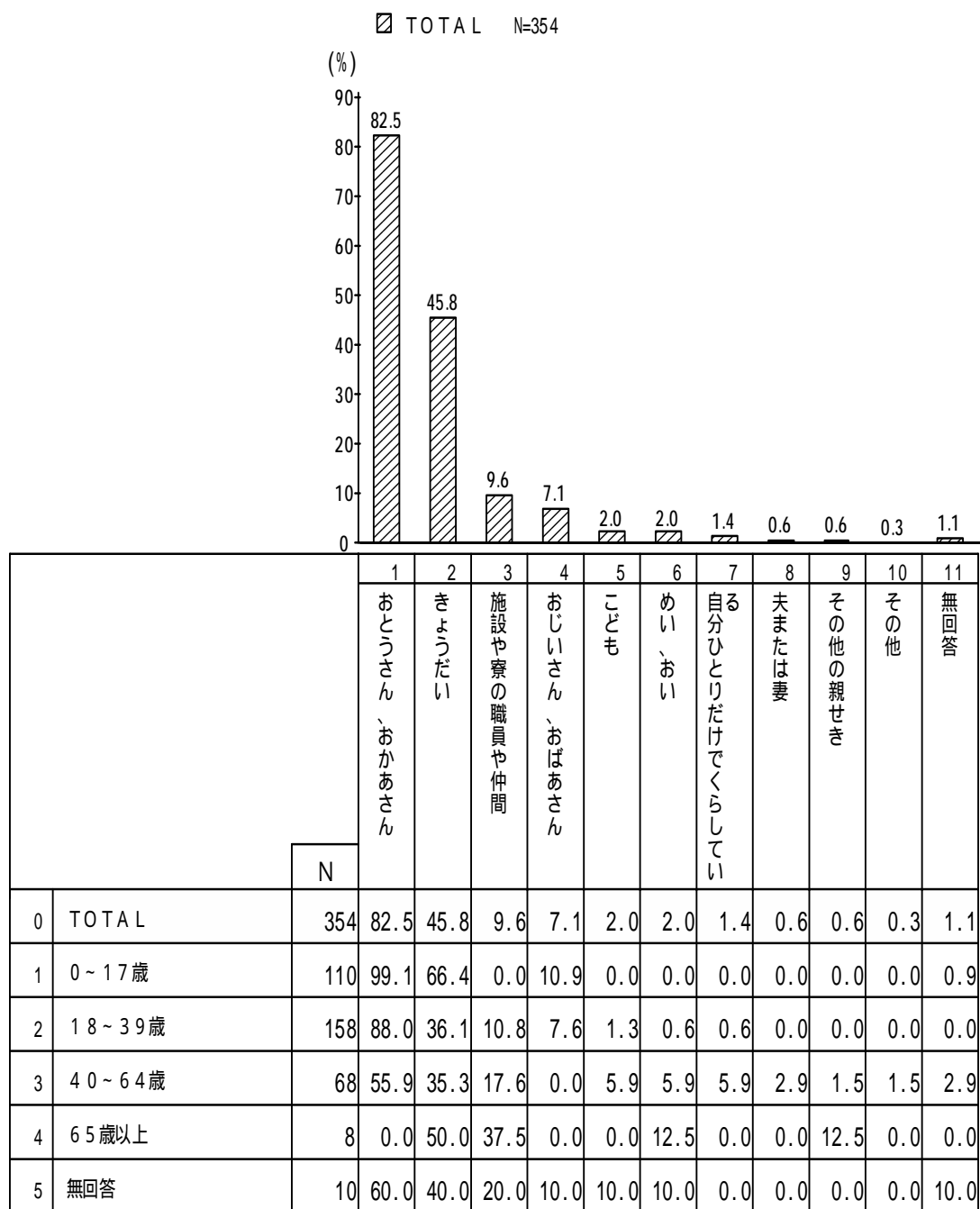
同居者

いま、あなたはだれと暮らしていますか。(はいくつでも)

一緒に暮らしている人は、「おとうさん、おかあさん」が82.5%と最も多く、次いで「きょうだい」(45.8%)、「施設や寮の職員や仲間」(9.6%)と続いている。

年齢別にみると、「40～64歳」では、「施設や寮の職員や仲間」が17.6%、「一人暮らし」が5.9%、「夫または妻」が2.9%となっている。

同居者



愛の手帳の取得状況及び障害の程度

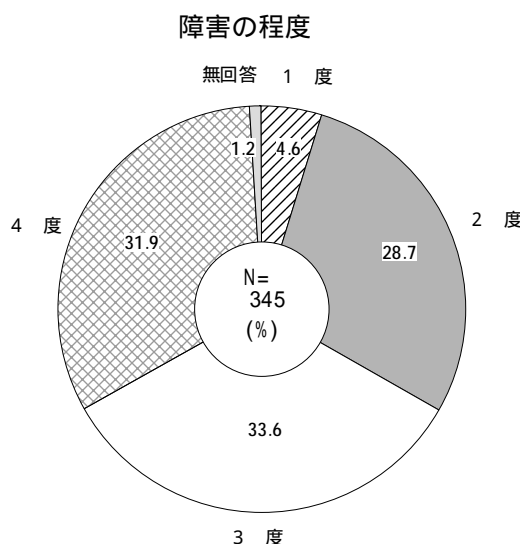
あなたは「愛の手帳」をもっていますか。(は1つ) もっている場合には、手帳に書かれている障害の程度にも をつけてください。

対象者の97.5%が愛の手帳を取得している。

愛の手帳の取得状況

	N	もっている	もっていない	無回答
TOTAL	354	97.5	1.7	0.8

手帳に書かれている障害の程度は、「3度」が33.6%と最も多く、次いで「4度」(31.9%)、「2度」(28.7%)、「1度」(4.6%)の構成となっている。



身体障害者手帳の取得状況

あなたは「身体障害者手帳」をもっていますか。(は1つ) もっている場合には、手帳に書かれている等級にも をつけてください。

愛の手帳と身体障害者手帳の両方を所持している割合は、愛の手帳所持者の17.4%である。

身体障害者手帳の取得状況

	N	もっている	もっていない	無回答
TOTAL	354	18.4	62.7	18.9
愛の手帳をもっている	345	17.4	63.5	19.1
愛の手帳をもっていない	6	50.0	50.0	-

「愛の手帳の所持状況」無回答は省略

愛の手帳に記載された障害の程度と、身体障害者手帳に記載された障害の等級をあわせてみると、「愛の手帳1・2度 - 身体障害者手帳1・2級」の人（知的障害・身体障害ともに重度の人）は29人で、重複障害者（60人）の48.3%、愛の手帳所持者（345人）の8.4%を占めている。

身体障害者手帳の等級		愛の手帳と身体障害者手帳の障害の程度					
		1級	2級	3級	4級	5級	6級
愛の手帳の程度		重 度		中 度		軽 度	
TOTAL	60	27 45.0	11 18.3	9 15.0	2 3.3	4 6.7	3 5.0
1度（最重度）	13	11 84.6	0 -	0 -	1 7.7	0 -	1 7.7
2度（重 度）	20	13 65.0	5 25.0	1 5.0	0 -	0 -	0 -
3度（中 度）	16	2 12.5	4 25.0	6 37.5	0 -	1 6.3	2 12.5
4度（軽 度）	7	1 14.3	1 14.3	1 14.3	1 14.3	2 28.6	0 -

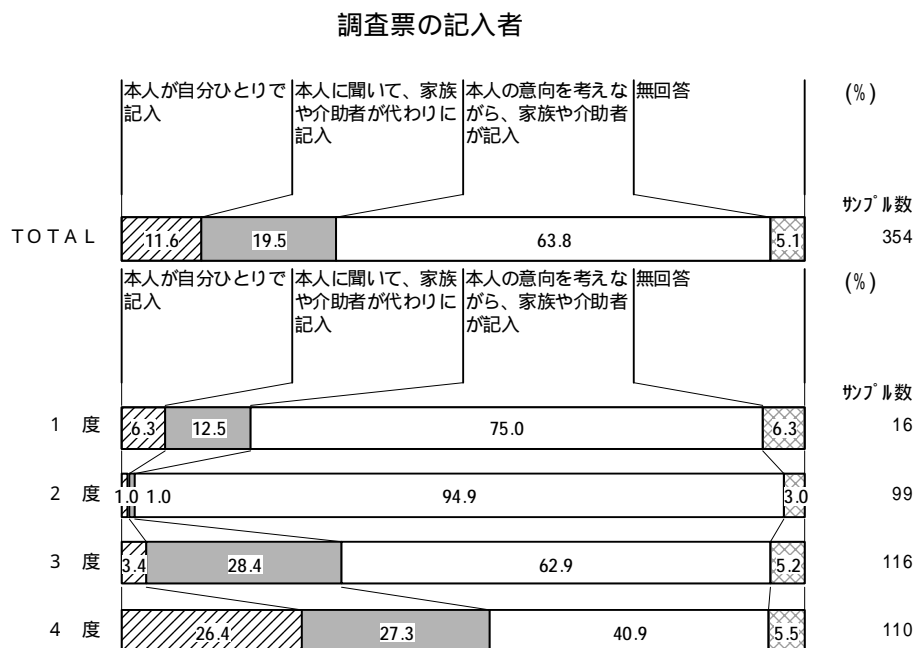
人数(人)
構成比(%)

「愛の手帳の程度」「身体障害者手帳の程度」無回答は省略

調査票の記入者

この調査票はどなたが記入されましたか。(は1つ)

調査票を「本人が自分ひとりで記入」したケースは全体の11.6%である。ただし、障害の程度が4度の対象者では、26.4%が「本人が自分ひとりで記入」と回答している。



(2) 日常生活について

日常生活動作における介助・援助の必要性

家の中(または施設の中)で、次のようなことをするとき、どのくらい手助けが必要ですか。

日常生活における「食事」「トイレ」「入浴」「衣服の着脱」「家の中の移動」「外出」の6つの動作のうち、最も介助・援助を必要とするのは「外出」で、全体の25.1%の人が「全部介助・援助が必要」、25.1%が「一部介助・援助が必要」と回答しており、あわせると約半数が外出に際して何らかの介助・援助を必要としている状況がうかがえる。

障害の程度が1度(最重度)・2度(重度)についてみると、介助・援助の必要性は高く、「外出」や「入浴」では7割以上が何らかの介助・援助を必要としている。

日常生活動作における介助・援助の必要性 (全体 N=354)

	一人のできる	時間をかければ一人のできる	一部介助・援助が必要	全部介助・援助が必要	無回答
食事	72.0	4.2	14.1	7.9	1.7
トイレ	68.1	4.5	15.5	10.2	1.7
入浴	51.4	6.8	25.4	15.0	1.4
衣服の着脱	64.7	8.5	14.4	10.5	2.0
家の中の移動	86.7	1.7	2.3	6.8	2.5
外出	42.9	5.1	25.1	25.1	1.7

日常生活動作における介助・援助の必要性 ((1度・2度) N=115)

	一人のできる	時間をかければ一人のできる	一部介助・援助が必要	全部介助・援助が必要	無回答
食事	54.8	5.2	22.6	16.5	0.9
トイレ	41.7	4.3	32.2	21.7	-
入浴	20.0	6.1	40.0	33.9	-
衣服の着脱	46.1	7.8	20.9	25.2	-
家の中の移動	74.8	2.6	5.2	15.7	1.7
外出	18.3	2.6	24.3	53.9	0.8

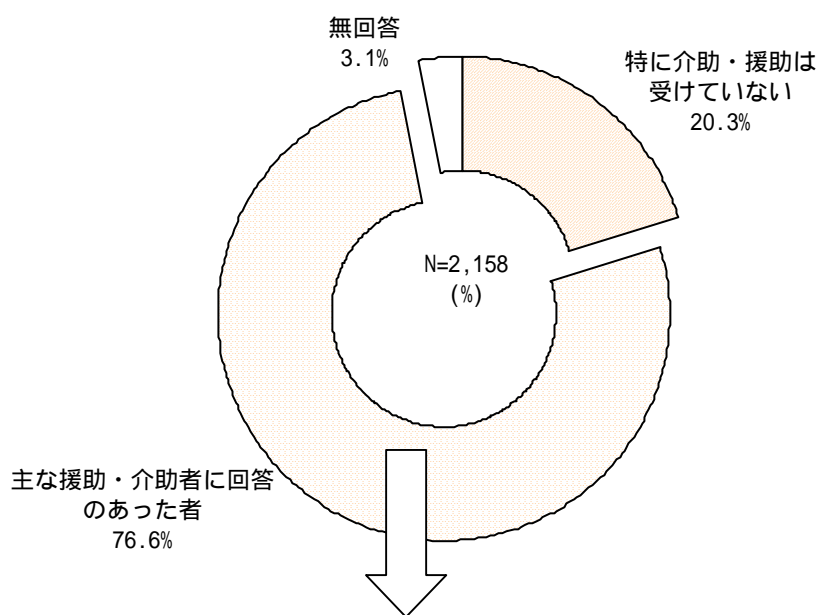
主な介助・援助者

ふだん、あなたを手助けする時間がいちばん長いのはどなたですか。(は1つ)

主な援助・介助者に回答のあった人は 76.6%であり、約 2 割 (20.3%) は「特に介助・援助は受けていない」と回答している。

主な援助・介助者は、「父、母」が約 8 割 (80.4%) を占める。

介助・援助の状況



主な介助・援助者

N=271

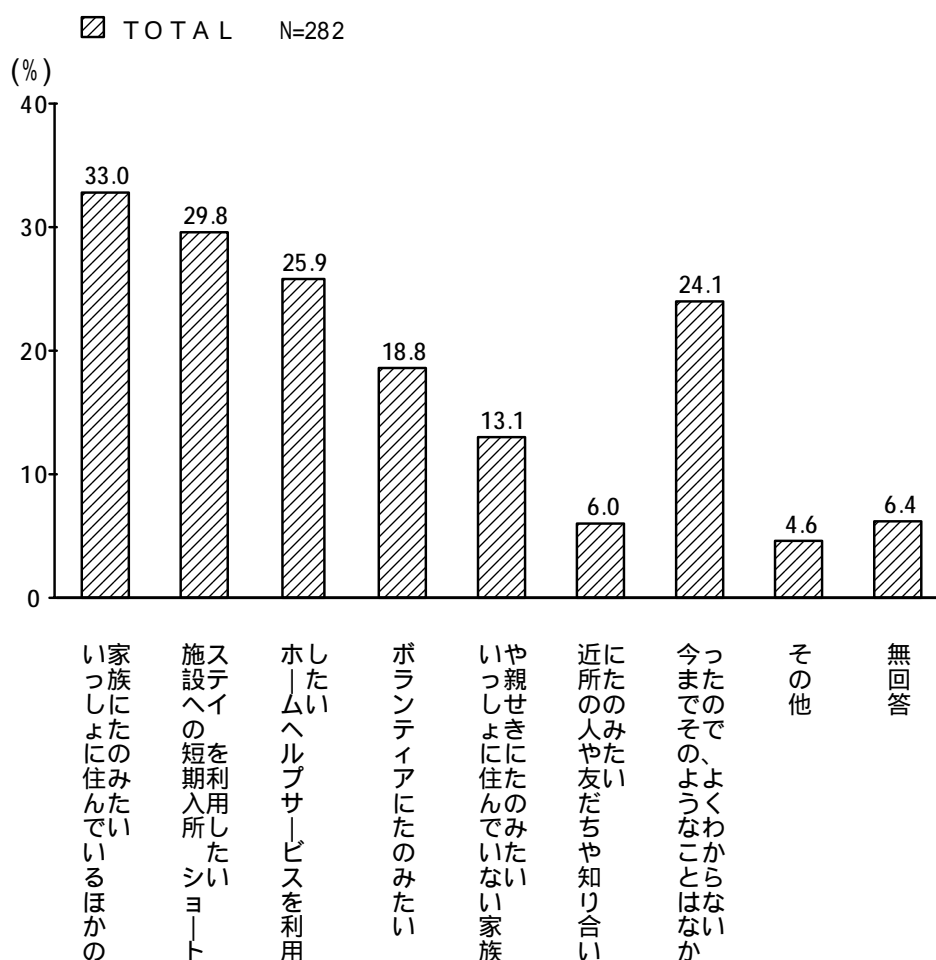
父、母	施設の職員	兄弟、姉妹	病院の職員 (看護婦など)	ホームヘルパー	その他の親せき	夫または妻	その他
80.4	9.2	4.4	3.0	1.1	0.7	0.4	0.7

介助・援助者が不在のときに希望する対応

いつも手助けしているかたが、病気の時や、出かけなくてはならないときなどは、どのようにしてほしいと思いますか。(はいいくつでも)

主な介助・援助者が病気などで一時的に介護ができなくなった場合に望む対応としては、「一緒に住んでいるほかの家族に頼みたい」と考えている人が33.0%と最も多く、次いで「施設への短期入所(ショートステイ)を利用したい」(29.8%)、「ホームヘルプサービスを利用したい」(25.9%)と続いている。

介助・援助者不在のときに希望する対応

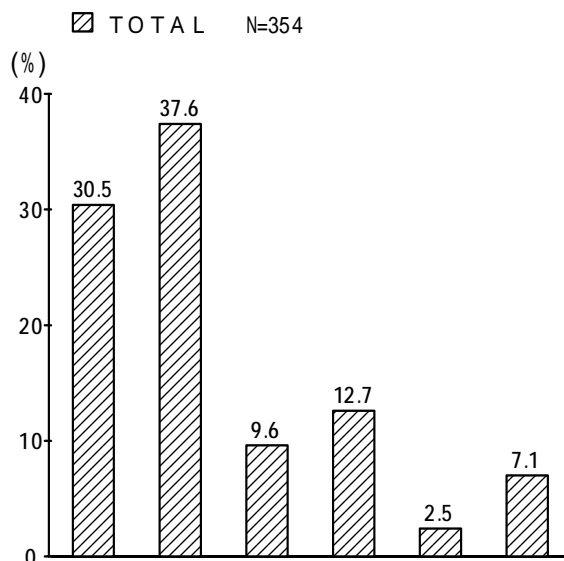


日中の過ごし方（現状と希望）

あなたは、平日の昼間、主にどこで（なにをして）すごしていますか。（は1つ）

日中の過ごし方をみると、20代、30代では「働いている（授産施設・福祉作業所なども含む）」人が6割以上となっている。

現在の日中の過ごし方

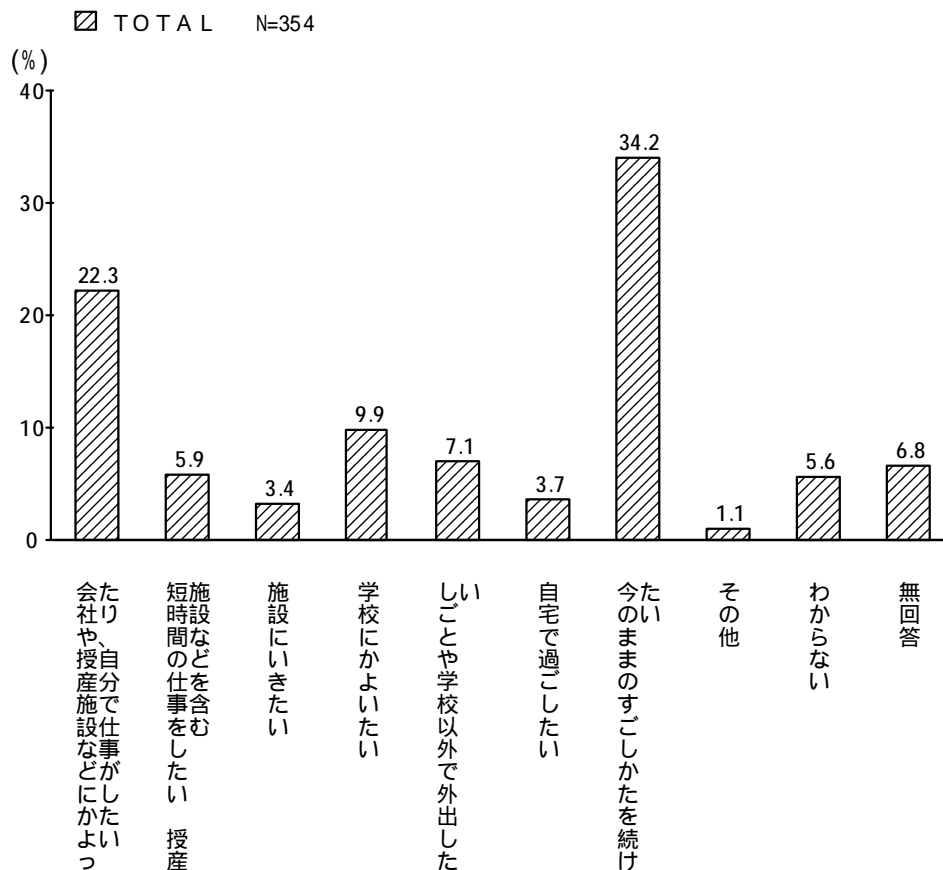


		N	1	2	3	4	5	6
			幼稚園や保育園、学校などに	働いている（授産施設・福祉作業所なども含む）	病院・施設などで過ごす	自宅にすることが多い	その他	無回答
0	TOTAL	354	30.5	37.6	9.6	12.7	2.5	7.1
1	0～9歳	40	85.0	0.0	2.5	5.0	0.0	7.5
2	10～19歳	83	85.5	7.2	2.4	0.0	1.2	3.6
3	20～29歳	75	0.0	65.3	9.3	12.0	5.3	8.0
4	30～39歳	70	2.9	60.0	14.3	15.7	2.9	4.3
5	40～49歳	35	0.0	42.9	11.4	25.7	0.0	20.0
6	50～59歳	29	0.0	37.9	20.7	27.6	6.9	6.9
7	60～69歳	10	0.0	40.0	40.0	20.0	0.0	0.0
8	70～79歳	2	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0
10	無回答	10	10.0	60.0	0.0	20.0	0.0	10.0

あなたは、今後、日中をどのようにすごしたいですか。(は1つ)

今後、希望する日中の過ごし方としては、「今までのままの過ごし方を続けたい」と考えている人が34.2%と最も多い。

今後、希望する日中の過ごし方



「今までの過ごし方を続けたい」と回答した人が、現在、主にどこで平日の昼間を過ごしているかをみると、「働いている(授産施設・福祉作業所なども含む)」が52.9%と最も多く、次いで「幼稚園や保育園、学校などにかよっている」が15.7%、「病院・施設などで過ごす」が14.9%などとなっている。

「今までの過ごし方を続けたい」と回答した人の現在の日中の過ごし方

今のままの過ごし方を続けたい	N	幼稚園や保育園、学校などにかよっている	働いている(授産施設・福祉作業所なども含む)	病院・施設などで過ごす	自宅に多い
	121	15.7	52.9	14.9	9.1

その他、無回答は省略

(3) 教育について

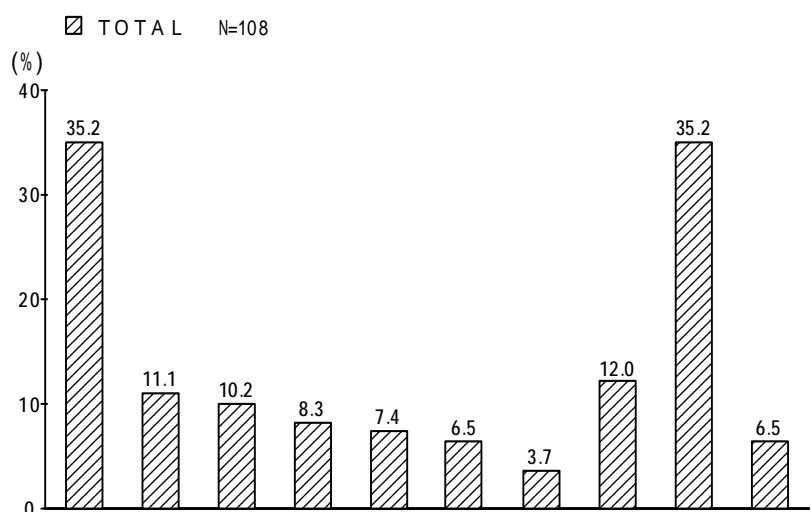
幼稚園・学校等に通っていて困っていること

学校などにかよっていて困っていることはありますか。(はいいくつでも)

幼稚園や学校などに通っていて困っていることは、35.2%の人が「特にない」と回答しているが、あげられた項目としては「かよるのがたいへん」が35.2%と最も多い。

通園・通学先別にみると、養護学校に通っている人の36.8%は「かよるのがたいへん」、14.0%は「先生が自分のことをよくわかってくれない」と感じていることがうかがえる。

幼稚園・学校などで困っていること



	N	困っていること									
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
0 TOTAL	108	35.2	11.1	10.2	8.3	7.4	6.5	3.7	12.0	35.2	6.5
1 幼稚園	3	33.3	33.3	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	66.7	0.0
2 保育園	4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	50.0	0.0
3 通園施設	6	66.7	16.7	0.0	0.0	16.7	0.0	16.7	16.7	0.0	16.7
4 養護学校	57	36.8	8.8	14.0	8.8	5.3	7.0	3.5	12.3	33.3	7.0
5 心身障害学級	25	44.0	16.0	8.0	12.0	12.0	8.0	0.0	4.0	36.0	0.0
6 通常の学級	5	0.0	0.0	20.0	0.0	20.0	20.0	0.0	0.0	60.0	20.0
9 その他	7	14.3	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0	14.3	28.6	42.9	0.0
10 無回答	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0

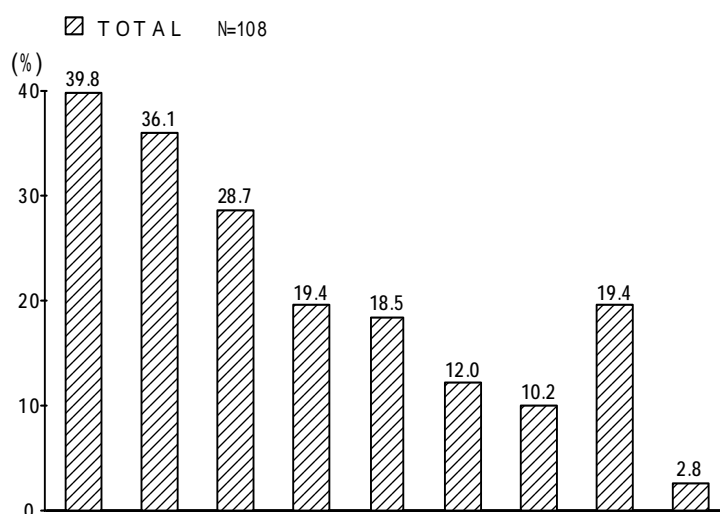
学校教育に望むこと

いまかよっているところに望むことはなんですか。(はいくつでも)

学校教育に望むこととしては、「自分に合った教え方をしてほしい」をあげる人が約4割(39.8%)と最も多く、次いで「通常の学級の人たちとふれあう機会をふやしてほしい」(36.1%)、「ひとりひとりの生徒ごとに指導をしてほしい」(28.7%)と続いている。

通園・通学先別にみると、養護学校に通っている人の43.9%は「通常の学級の人たちとふれあう機会をふやしてほしい」、22.8%は「障害があっても、通常学級に入れるようにしてほしい」と望んでいることがうかがえる。

学校教育に望むこと



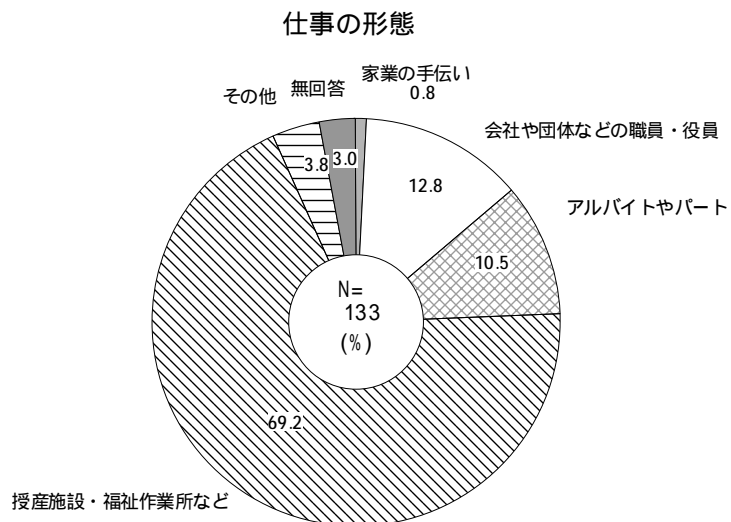
	N	1 2 3 4 5 6 7 8 9								
		1 自し 分に 合っ た教 え方 をし てほ い	2 通う 機会 をふ やし てほ い	3 ひ ど り と り の 生 徒 ご と に 指 導 を し て ほ い	4 障 害 が あ る よ う に し て ほ い	5 勉 強 に の つ て ほ い	6 学 校 の 中 や 教 科 書 、 教 材 を 使 	7 そ の 他	8 特 に な い	9 無 回 答
0 TOTAL	108	39.8	36.1	28.7	19.4	18.5	12.0	10.2	19.4	2.8
1 幼稚園	3	33.3	66.7	33.3	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0
2 保育園	4	25.0	25.0	25.0	50.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0
3 通園施設	6	50.0	50.0	16.7	33.3	0.0	16.7	16.7	0.0	0.0
4 養護学校	57	36.8	43.9	31.6	22.8	24.6	15.8	12.3	12.3	3.5
5 心身障害学級	25	44.0	28.0	28.0	12.0	16.0	8.0	4.0	32.0	0.0
6 通常の学級	5	40.0	20.0	40.0	20.0	0.0	20.0	0.0	40.0	0.0
9 その他	7	57.1	0.0	14.3	0.0	14.3	0.0	28.6	28.6	0.0
10 無回答	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0

(4) 就労について

仕事の形態

いま、どのような仕事をしていますか。(は1つ)

仕事の形態は、「授産施設・福祉作業所など」が約7割(69.2%)を占める。



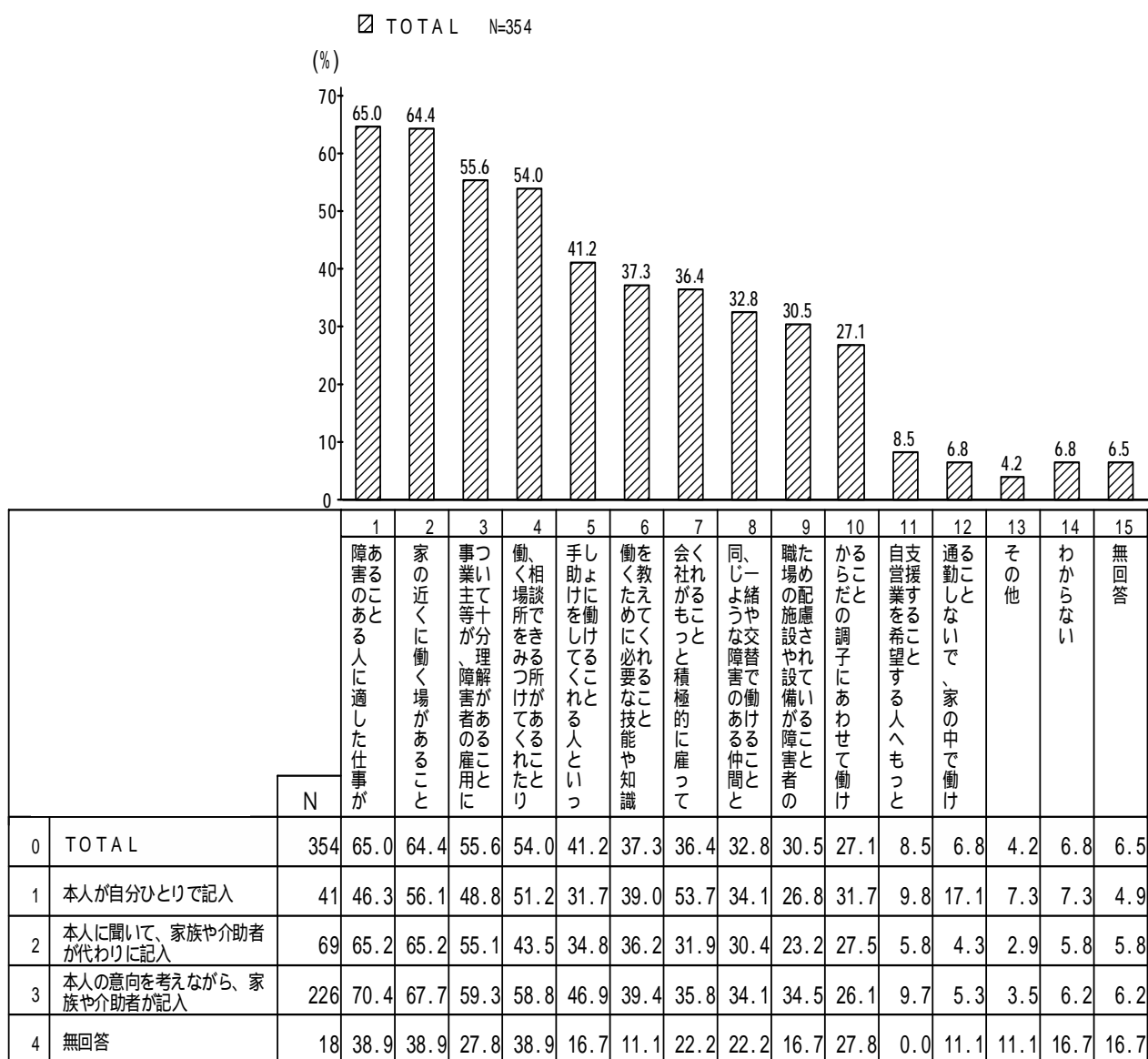
働くために大切な環境整備

あなたは、障害のある人が働くためにはどのようなことが大切だと思いますか。あてはまるものすべてに をつけてください。(はいいくつでも)

障害者が働くために大切な環境整備としては、「障害のある人に適した仕事があること」をあげる人が65.0%と最も多く、次いで「家の近くに働く場があること」(64.4%)、「事業主等が、障害者の雇用について十分理解があること」(55.6%)、「働く場所をみつけてくれたり、相談できる場所があること」(54.0%)と続いている。

調査票の記入者別にみると、「本人が自分ひとりで記入した」場合は、家族や介助者が記入した場合に比べて、「会社が積極的に雇ってくれること」(53.7%)や「からだの調子にあわせて働けること」(31.7%)、「通勤しないで、家の中で働けること」(17.1%)などが高い割合であげられている。

働くために大切な環境整備



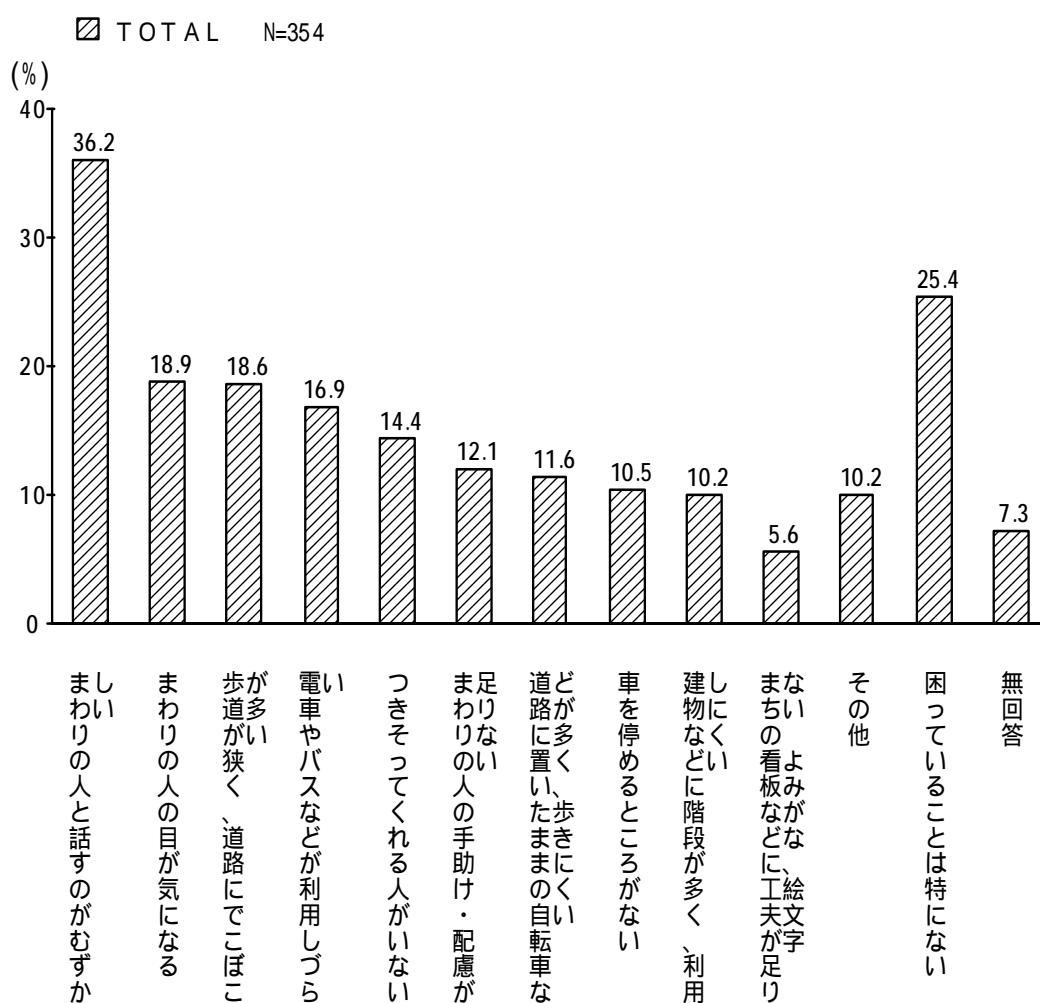
(5) 外出や余暇活動について

外出の際に困っていること

出かけるときに、困っていることがありますか。あてはまるものすべてにをつけてください。(はいいくつでも)

外出の際に困っていることとしては、「まわりの人と話すのがむずかしい」をあげる人が36.2%と最も多いほか、「まわりの目が気になる」(18.9%)や「歩道が狭く、道路にでこぼこが多い」(18.6%)がそれぞれ2割程度みられる。

外出の際に困っていること



余暇活動の状況（現状と希望）

あなたは、最近、次のような活動をしましたか。（はいいくつでも）

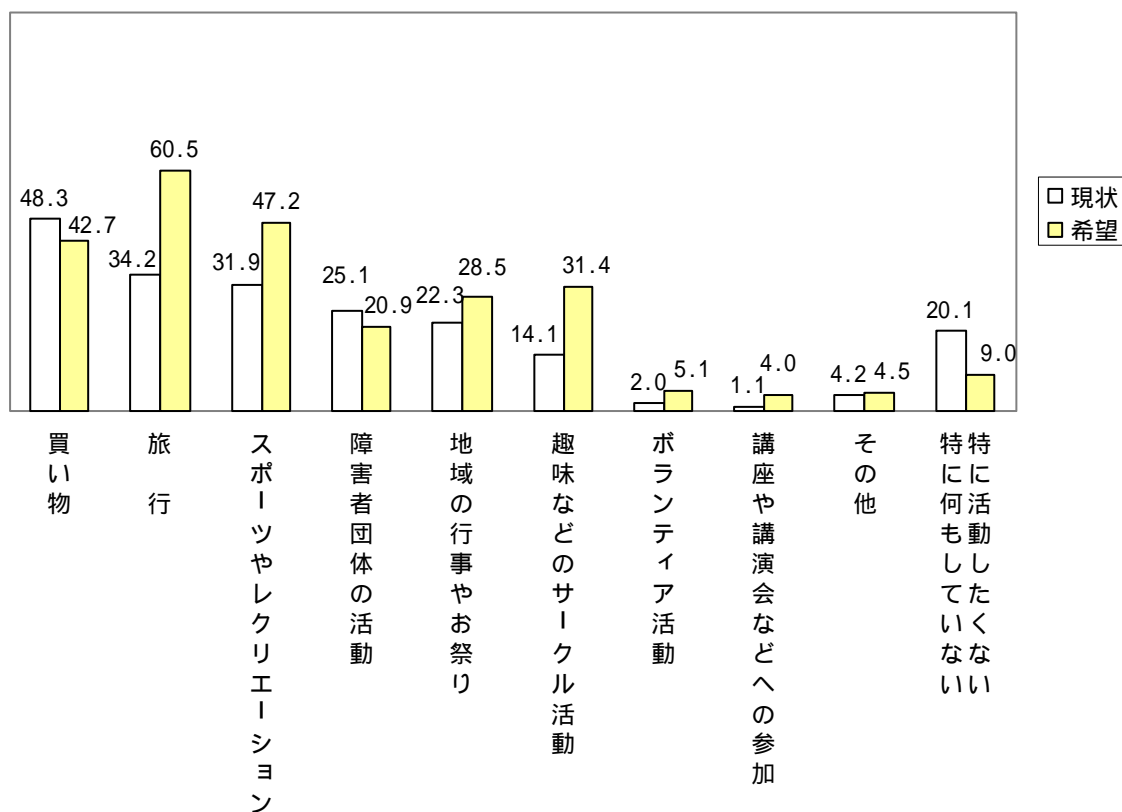
あなたは、これからどのような活動をしたいと思いますか。（はいいくつでも）

対象者が最近、最もよくした活動は「買い物」で、48.3%の人があげている。次いで「旅行」（34.2%）、「スポーツやレクリエーション」（31.9%）と続いているが、約2割（20.1%）の人は「特に何もしていない」状況である。

今後、したいと思う活動については、「旅行」をあげる人が60.5%と最も多く、次いで「スポーツやレクリエーション」（47.2%）、「買い物」（42.7%）と続いている。「買い物」と「障害者団体の活動」以外は、いずれの活動も、最近活動した人よりも、今後したいと思っている人のほうが多くなっている。

最近した活動と今後したい活動

N=354

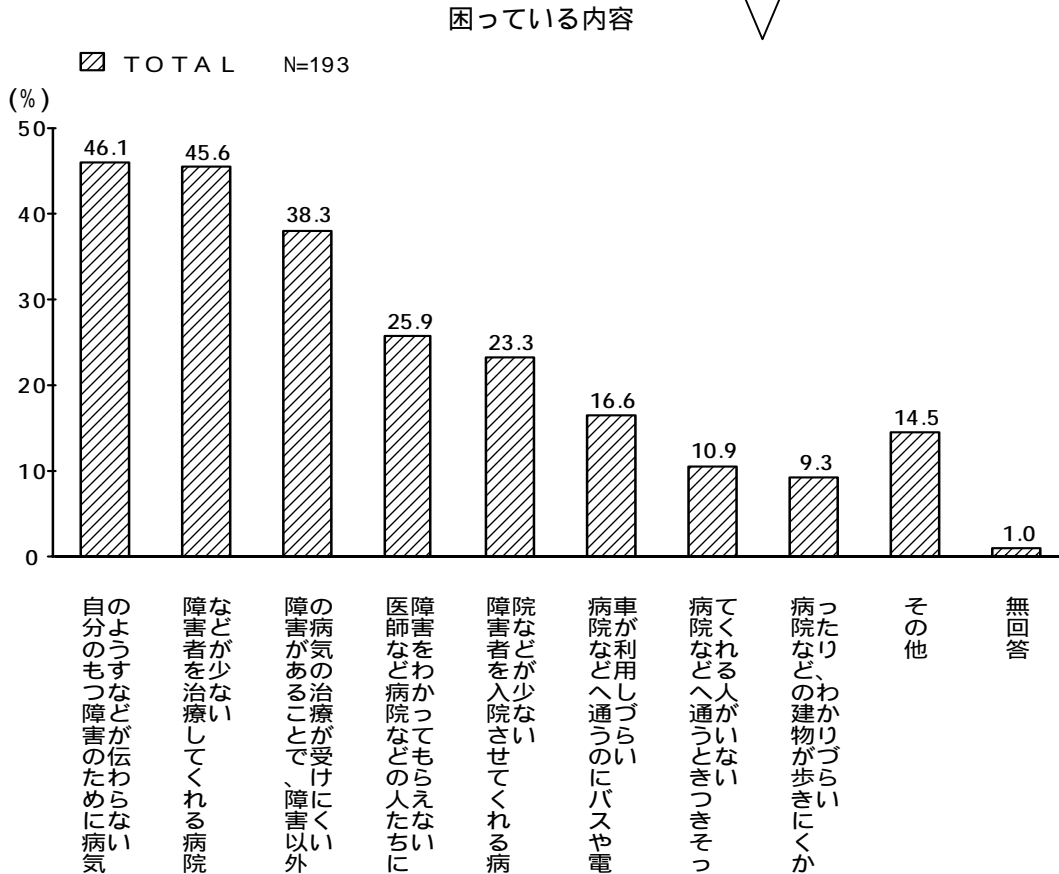
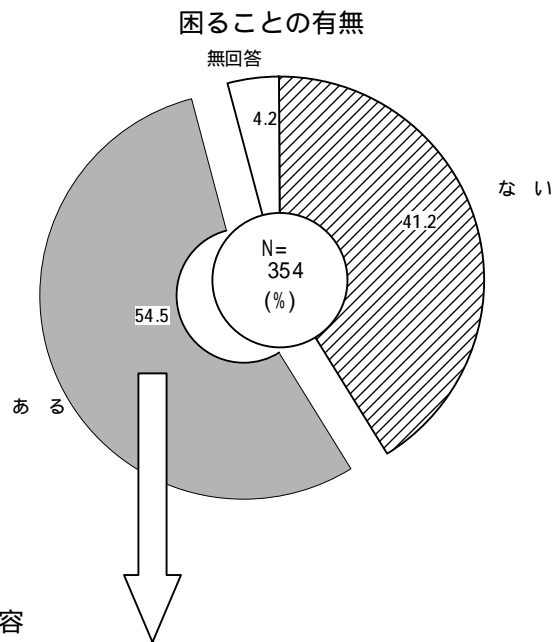


(6) 医療や健康について

医療を受けるにあたって困ること

困ることはどんなことですか。(はいくつでも)

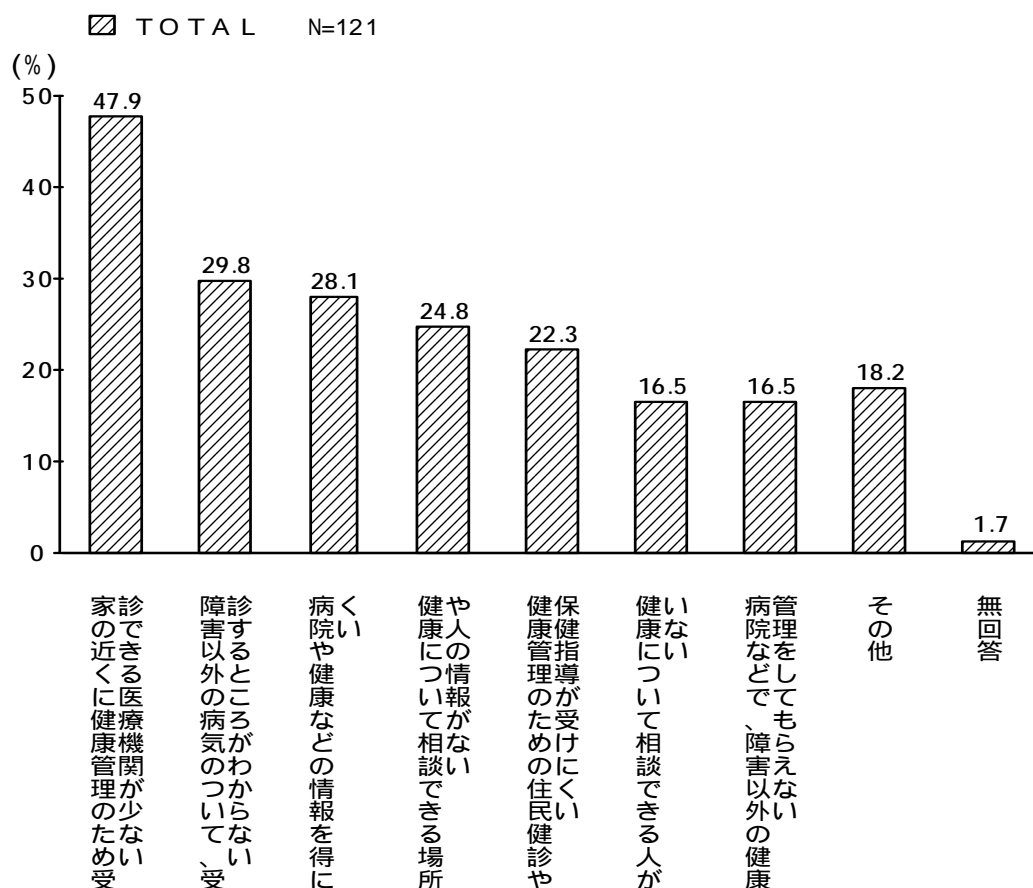
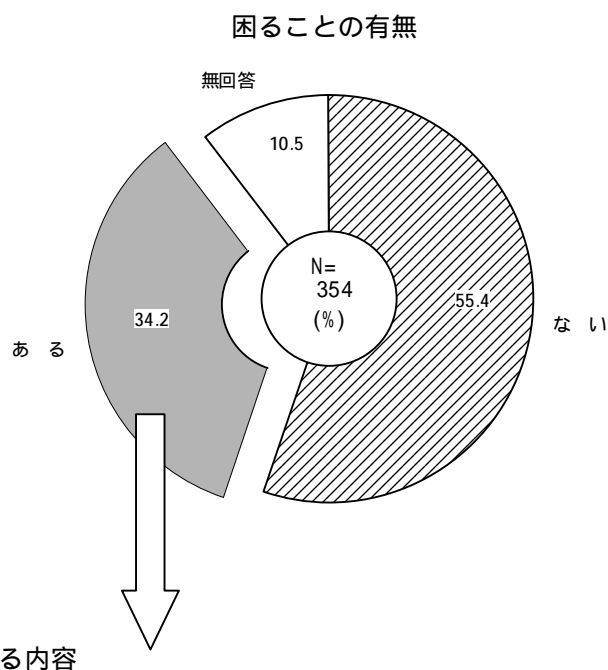
医療を受けるにあたって困ることが「ある」人は 54.5%で、内容としては「自分のもつ障害のために病気のようにすなどが伝わらない」(46.1%)と「障害者を治療してくれる病院などが少ない」(45.6%)がそれぞれ4割を超え多くあげられている。



健康管理について困ること

困ることはどんなことですか。(はいくつでも)

健康管理について困ることが「ある」人は34.2%で、内容としては「家の近くに、健康管理のため受診できる医療機関が少ない」をあげる人が47.9%と最も多く、次いで「障害以外の病気について、受診するところがわからない」(29.8%)、「病院や健康などの情報を得にくい」(28.1%)と続いている。



(7) 情報の取得や相談について

悩み事や心配事の相談先

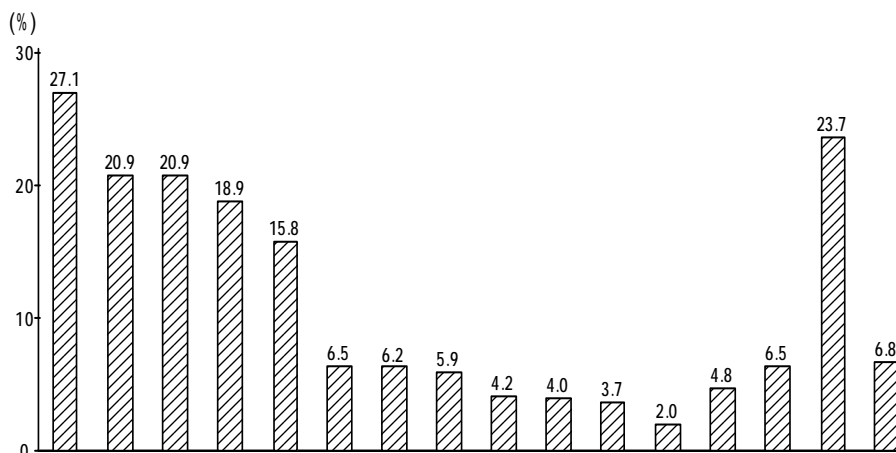
悩み事や心配事があるとき、家族や親せき以外に、どのようなところに相談していますか。(はいくつでも)

悩み事や心配事の相談先(家族や親せき以外)は、「友だちや知り合い」が27.1%と最も多く、次いで「福祉施設や作業所の職員」と「学校の先生や職場の仲間」がそれぞれ20.9%で続いている。

年代別にみると、18歳未満では「学校の先生や職場の仲間」(49.1%)と「友だちや知り合い」(40.0%)をあげる人の割合が特に高く、「18~39歳」では「福祉施設や作業所の職員」(29.1%)と「市役所の福祉相談窓口」(25.3%)が他の年代に比べて比較的多くあげられている。一方、「18~39歳」では「だれかに相談することはあまりない」が27.2%、「相談できるところはない」が8.2%、「40~64歳」では「だれかに相談することはあまりない」が22.1%、「相談できるところはない」が7.4%となっており、18歳以上では、悩み事や心配事を相談しない、あるいは相談できない人が3割以上いる状況がうかがえる。

悩み事や心配事の相談先(家族・親せき以外)

□ TOTAL N=354



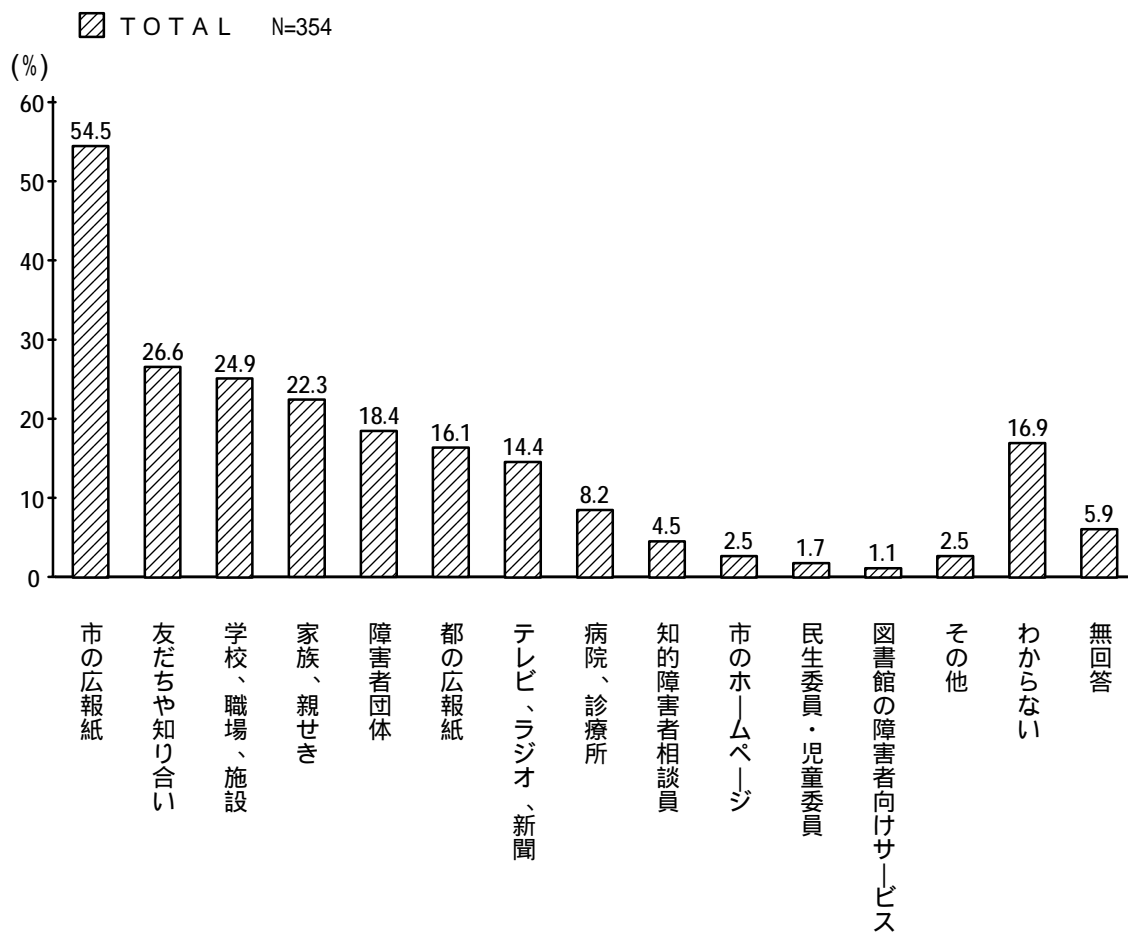
		N	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
			友だちや知り合い	福祉施設や作業所の職員	学校の先生や職場の仲間	市役所の福祉相談窓口	病院・診療所	田無・保谷障害者福祉センター	障害者団体	知的障害者相談員	児童相談所	市の社会福祉協議会の職員	保健所 保健婦など	民生委員・児童委員	その他	相談できるところはない	だれかに相談することはあま	無回答
0	TOTAL	354	27.1	20.9	20.9	18.9	15.8	6.5	6.2	5.9	4.2	4.0	3.7	2.0	4.8	6.5	23.7	6.8
1	0~17歳	110	40.0	5.5	49.1	10.0	15.5	3.6	8.2	4.5	12.7	0.9	3.6	0.0	3.6	3.6	18.2	6.4
2	18~39歳	158	27.2	29.1	9.5	25.3	17.7	7.6	6.3	7.0	0.0	5.1	4.4	2.5	7.0	8.2	27.2	4.4
3	40~64歳	68	11.8	26.5	5.9	20.6	11.8	5.9	4.4	2.9	0.0	4.4	1.5	2.9	2.9	7.4	22.1	11.8
4	65歳以上	8	12.5	12.5	0.0	0.0	12.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	12.5	0.0	0.0	12.5	50.0	12.5
5	無回答	10	0.0	30.0	10.0	20.0	20.0	30.0	0.0	30.0	10.0	20.0	0.0	10.0	0.0	0.0	20.0	10.0

福祉サービスに関する情報の入手先

あなたは、福祉サービスなどの情報を主にどこから得ていますか。(はいくつでも)

福祉サービスなどの情報は「市の広報紙」から得ている人が54.5%と特に多い。

福祉サービスに関する情報の入手先



(8) 福祉サービスについて

各種福祉サービスの利用状況

次のようなサービスを知っていますか。また、利用したことがありますか。(1) ~ (7) のサービスについてそれぞれおこたえください。

最も利用率が高いサービスは、「タクシー料金の助成」で 20.9%の人が利用している。次いで「自動車燃料費の助成」が 20.1%で続いている。

愛の手帳に記載されている程度が 1 度(最重度)と 2 度(重度)の人に限ってみると、「ホームヘルパーの派遣」(21.7%)、「緊急一時保護」(20.0%)、「施設緊急一時保護」(20.9%)の利用率は約 2 割、「タクシー料金の助成」は 33.9%、「自動車燃料費」は 38.3%と高くなっている。

利用状況 (全体 N=354)

	利用したことがある	知っているが利用したことはない	制度を知らない	無回答
(1) ホームヘルパーの派遣	10.7	52.8	27.4	9.0
(2) 緊急一時保護	10.7	47.7	30.2	11.3
(3) 施設緊急一時保護	8.8	53.4	27.1	10.7
(4) 知的障害者生活寮	3.1	55.4	30.5	11.0
(5) ガイドヘルパーの派遣	1.4	39.5	46.9	12.1
(6) タクシー料金の助成	20.9	40.4	26.6	12.1
(7) 自動車燃料費の助成	20.1	36.4	30.2	13.3

利用状況 (愛の手帳 1 度・2 度 N=115)

	利用したことがある
(1) ホームヘルパーの派遣	21.7
(2) 緊急一時保護	20.0
(3) 施設緊急一時保護	20.9
(4) 知的障害者生活寮	-
(5) ガイドヘルパーの派遣	1.7
(6) タクシー料金の助成	33.9
(7) 自動車燃料費の助成	38.3

各種福祉サービスの利用意向

あなたは、今後、次のようなサービスを利用したいと思いますか。(1)～(7)のサービスについてそれぞれおこたえください。

最も利用意向が高いサービスは、「タクシー料金の助成」で49.2%の人が利用を希望している。次いで「施設緊急一時保護」が46.6%、「緊急一時保護」が42.1%と続いている。

利用意向 (全体 N=354)

	今後、 利用した い	今後、 利用した くない	わからな い	無回答
(1) ホームヘルパーの派遣	39.7	6.7	38.5	15.2
(2) 緊急一時保護	42.1	5.4	37.3	15.3
(3) 施設緊急一時保護	46.6	4.2	35.6	13.6
(4) 知的障害者生活寮	32.8	9.9	43.8	13.6
(5) ガイドヘルパーの派遣	33.9	7.3	42.1	16.7
(6) タクシー料金の助成	49.2	6.8	28.2	15.8
(7) 自動車燃料費の助成	41.5	6.5	34.2	17.8

実際の利用状況と利用意向を比べてみると、すべてのサービスで、利用意向が利用状況を大きく上回っている。その差が最も大きいのは「施設緊急一時保護」で、実際には8.8%の人しか利用していないが、今後は46.6%の人が利用したいと回答している。

利用状況と利用意向の対比 (全体 N=354)

	利用したこ とがある	今後、 利用したい	差 (ポ イント)
(1) ホームヘルパーの派遣	10.7	39.7	29.0
(2) 緊急一時保護	10.7	42.1	31.4
(3) 施設緊急一時保護	8.8	46.6	37.8
(4) 知的障害者生活寮	3.1	32.8	29.7
(5) ガイドヘルパーの派遣	1.4	33.9	32.5
(6) タクシー料金の助成	20.9	49.2	28.3
(7) 自動車燃料費の助成	20.1	41.5	21.4

(9) 障害者理解について

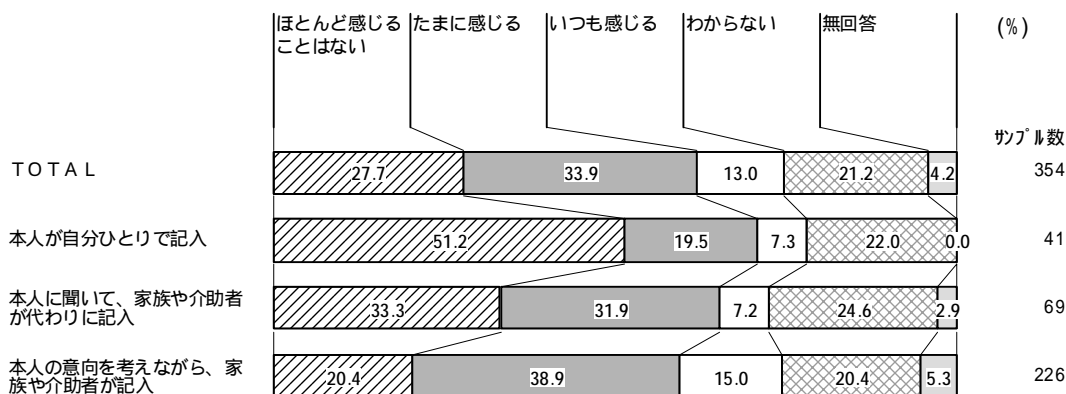
差別や人権侵害を感じた経験の有無

障害があることで、差別されている、あるいは、ほかの人にくらべてひどい扱いを受けていると感じることがありますか。(1 は1つ)

障害があることで差別や人権侵害を受けたことがあるかを尋ねたところ、27.7%の人は「ほとんど感じることはない」と回答しているものの、「たまに感じる」(33.9%)と「いつも感じる」(13.0%)をあわせると4割以上の人は障害を理由とした何らかの差別や人権侵害を感じていることがうかがえる。

調査票の記入者別にみると、「本人が自分ひとりで記入」した場合は、家族や介助者が記入した場合に比べて、差別や人権侵害を感じている割合が低くなっている。

差別や人権侵害を受けた経験



差別や人権侵害の具体的な内容

具体的には、どのようなときに感じますか。(自由記入)

差別や人権侵害を受けていると感じる場面としては、「ジロジロ見られる」、「奇異な目で見られる」、「冷たい視線を感じる」など、周囲の人と実際には接していないが視線などの態度に差別や偏見を感じている回答が多くを占めている。

[具体的な記入内容]

(学校などで)

- ・普通高校に行けない。(15歳)
- ・通常学級への入学拒否。(7歳)
- ・進路の選択肢が少ない。(18歳)
- ・障害児だけがスクールバスで特定の小学校(特殊学級)へ行かされる。(3歳)
- ・通常学級に入るのに苦労した。そして進級するのにも苦労する。(9歳)

(職場などで)

- ・仕事の選択、職種が少ない。会社の理解がない。(23歳)
- ・職場で「この子、障害者で何もできないのよ」と周りの人に話されていた。(29歳)
- ・働く場がない。(24歳)

(乗り物の中などで)

- ・バスやタクシーで愛の手帳を提示するとき、面倒そうにされる。(6歳)
- ・公共交通機関の利用の際、ひとり言などを話していると、けむたがられる。(8歳)
- ・座席に座ると隣の人が急に席を移った。(28歳)
- ・バス停などで奇声が出たりするので、避けられたりする。(26歳)
- ・電車やレストランで指をさされ、こそこそ話をされることがよくある。(8歳)

(店や病院などで)

- ・近くの床屋で「こういう子どもはできない」と言われた。(15歳)
- ・理髪店で、後から来た人を先にやって、後回しにされたことがある。(53歳)
- ・病院の診察で嫌がられたり、断られたことがある。(22歳)
- ・スーパーなどで混雑してくるとじゃまにされる。(13歳)
- ・店に入ったとき視線が集中することがある。(33歳)
- ・買い物に行って他の人より後回しにされる。(30歳)

(その他)

- ・いじめられる。(29歳)
- ・ジロジロみられる。(16歳)
- ・近所の人ひそひそ話をしている。(36歳)
- ・公共の場で小さなパニックを起こしたとき、まわりの人がジロジロ見る。(5歳)
- ・どこへ行っても偏見の目で見られる。(13歳)
- ・「どうせできないから」「言ってもわからない」と言われるのは嫌だ。(10歳)
- ・言葉で伝えることができないので、丁寧に應對してもらえないことが多い。(38歳)
- ・障害者関係の施設を作るときに必ず反対する人がいること。(24歳)
- ・同じ年くらいの子供と比べられるとき。(3歳)
- ・他人の家の植木を見ているだけで、変な人がいると通報された。(31歳)

(10) 将来のことや暮らし全般について

将来の暮らしで不安に感じていること

将来の暮らしで不安に感じていることがあれば自由にお書きください。

将来の暮らしで不安に感じていることとしては、「親が亡くなったあとの生活に関する不安」をもとにする内容が大半を占めている。特に、「暮らす場所の確保（施設整備）」や「生活費など経済的なこと」に関する不安が多くあげられている。

[具体的な記入内容]

(親が亡くなったりしたあとのこと)

- ・お母さんとお父さんがいなくなったときのこと。(10歳)
- ・もし家族の誰かが具合が悪くなったら、一人でやっていけるのだろうか。(23歳)
- ・父母が亡くなったあとが不安。西東京市に一生暮らせるのでしょうか。(24歳)
- ・両親がいなくなったら、食事のしたくが少ししかできない。(28歳)
- ・家族が高齢になって現在の介助が不可能になること。(38歳)
- ・親が死んだときや病気になったとき何をしたいかわからない。(32歳)

(住居や施設など暮らす場所に関すること)

- ・施設等が少ないこと。(7歳)
- ・アパートやマンションなどを貸してもらえるか心配。(36歳)
- ・グループホームでは病気のときに早く気づいて、適切な処置をしてもらえるか。(40歳)
- ・何も一人ではできないので施設をはやくつくってほしい。(28歳)
- ・現在、介護をする両親が年をとったとき、希望する療育施設に入所できるか。(25歳)
- ・施設やグループホームなどが充実しているかどうか不安。(14歳)

(経済的なこと)

- ・いろいろな手当が少なくなっていったら大変と思っている。(59歳)
- ・ママが年をとって病気になってお金がたくさんかかったらどうしよう。(10歳)
- ・作業所の収入だけでは生活できないのではないかとということ。(16歳)

(就労に関すること)

- ・学校を出たあと働ける場所があるか。(15歳)
- ・高等部卒業後の就労の場のことがいちばん気がかり。(15歳)
- ・仕事について自立して暮らしていけるか。(6歳)

(その他)

- ・支援費制度の導入により地域差が出てくること。(39歳)
- ・この地域で生活し続けるためにどのような支援体制があるのか。(21歳)
- ・障害程度にあった施設に通いたい、その希望がかなわないのかというのが不安。(17歳)

将来、望む暮らし方

将来は、どのような暮らしをしたいですか。(は1つ)

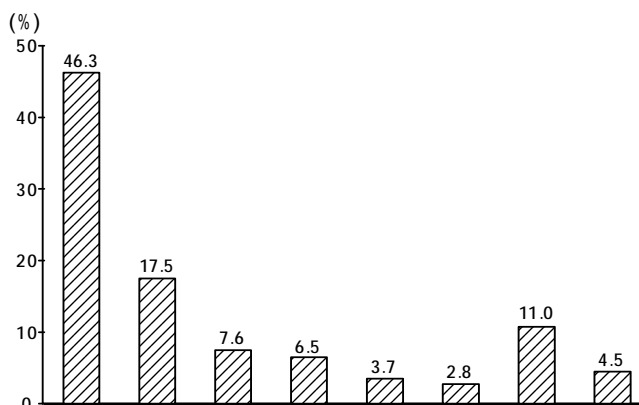
将来、望む暮らし方については、46.3%の人が「いまの家族と一緒に暮らしたい」と回答している。

調査票の記入者別にみると、「結婚して家庭をつくって暮らしたい」(17.1%)、「ひとりで暮らしたい」(14.6%)、「気の合う友だちと一緒に暮らしたい」(12.2%)は、家族や介助者が記入した場合に比べて、「本人が自分ひとりで記入」した場合のほうが高い割合を示している。

障害の程度別にみると、1度(最重度)・2度(重度)では、「施設のようなところで仲間と暮らしたい」が約3割(28.7%)を占め、高くなっている。

将来希望する暮らし方

□ TOTAL N=354



		N	1 いまの家族といっしょに暮ら	2 施設のようなところで仲間と	3 結婚して家庭をつくって暮ら	4 気の合う友だちといっしょに	5 ひとりで暮らしたい	6 その他	7 わからない	8 無回答
0	TOTAL	354	46.3	17.5	7.6	6.5	3.7	2.8	11.0	4.5
1	本人が自分ひとりで記入	41	31.7	9.8	17.1	12.2	14.6	0.0	12.2	2.4
2	本人に聞いて、家族や介助者が代わりに記入	69	47.8	13.0	13.0	5.8	4.3	1.4	11.6	2.9
3	本人の意向を考えながら、家族や介助者が記入	226	49.6	20.8	4.0	5.8	1.3	3.5	10.6	4.4
4	無回答	18	33.3	11.1	11.1	5.6	5.6	5.6	11.1	16.7

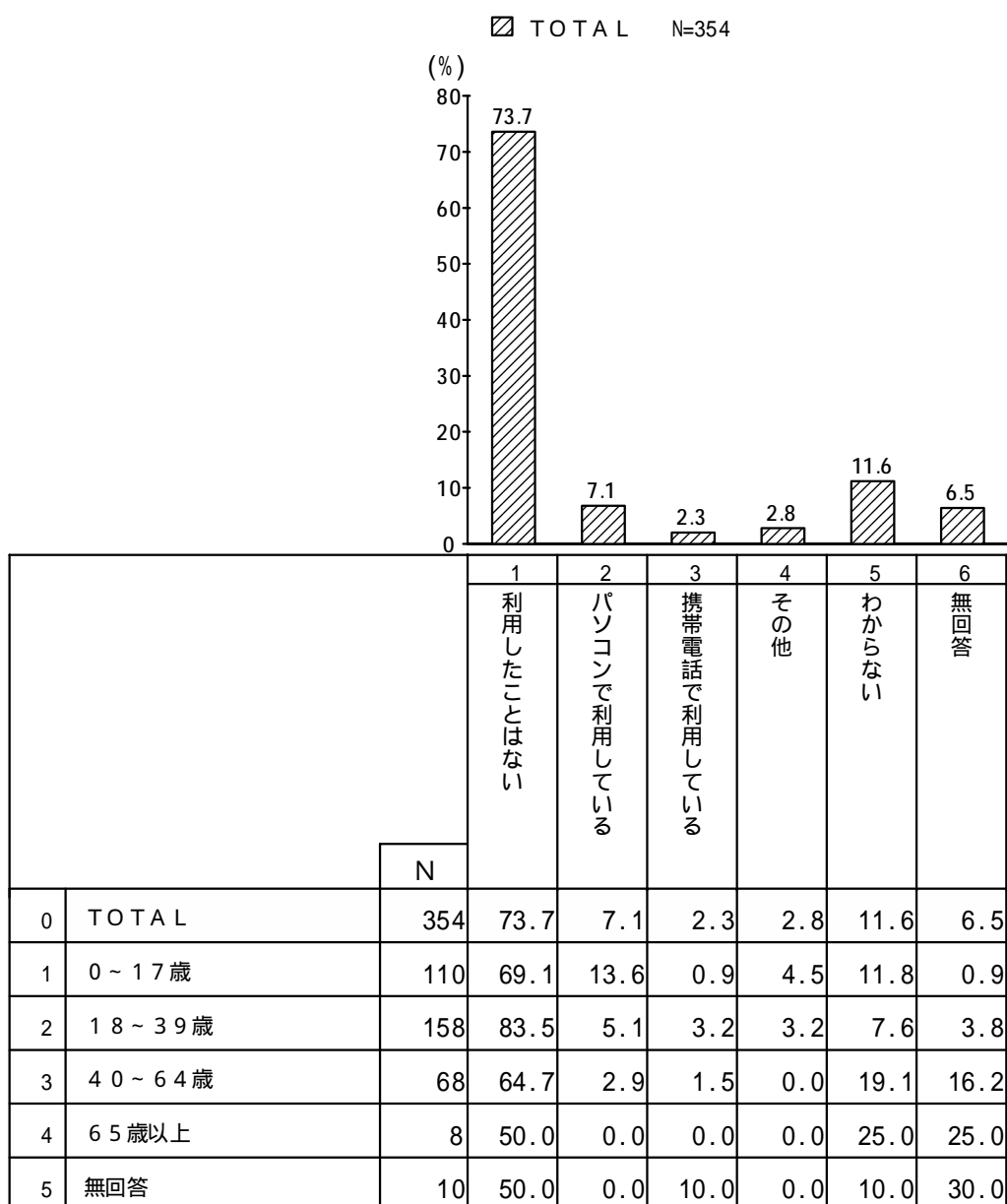
1	1 度	16	43.8	43.8	6.3	0.0	6.3	0.0	0.0	0.0
2	2 度	99	49.5	26.3	1.0	3.0	1.0	4.0	10.1	5.1
3	3 度	116	53.4	14.7	5.2	6.9	0.9	3.4	10.3	5.2
4	4 度	110	37.3	10.9	16.4	9.1	7.3	1.8	15.5	1.8
5	無回答	4	25.0	0.0	0.0	25.0	25.0	0.0	0.0	25.0

インターネットの利用状況

あなたは、家庭や職場などでインターネットを利用することがありますか。(はいいくつでも)

パソコンでインターネットを利用している人は、全体では7.1%であるが、18歳未満では13.6%となっている。

インターネットの利用状況



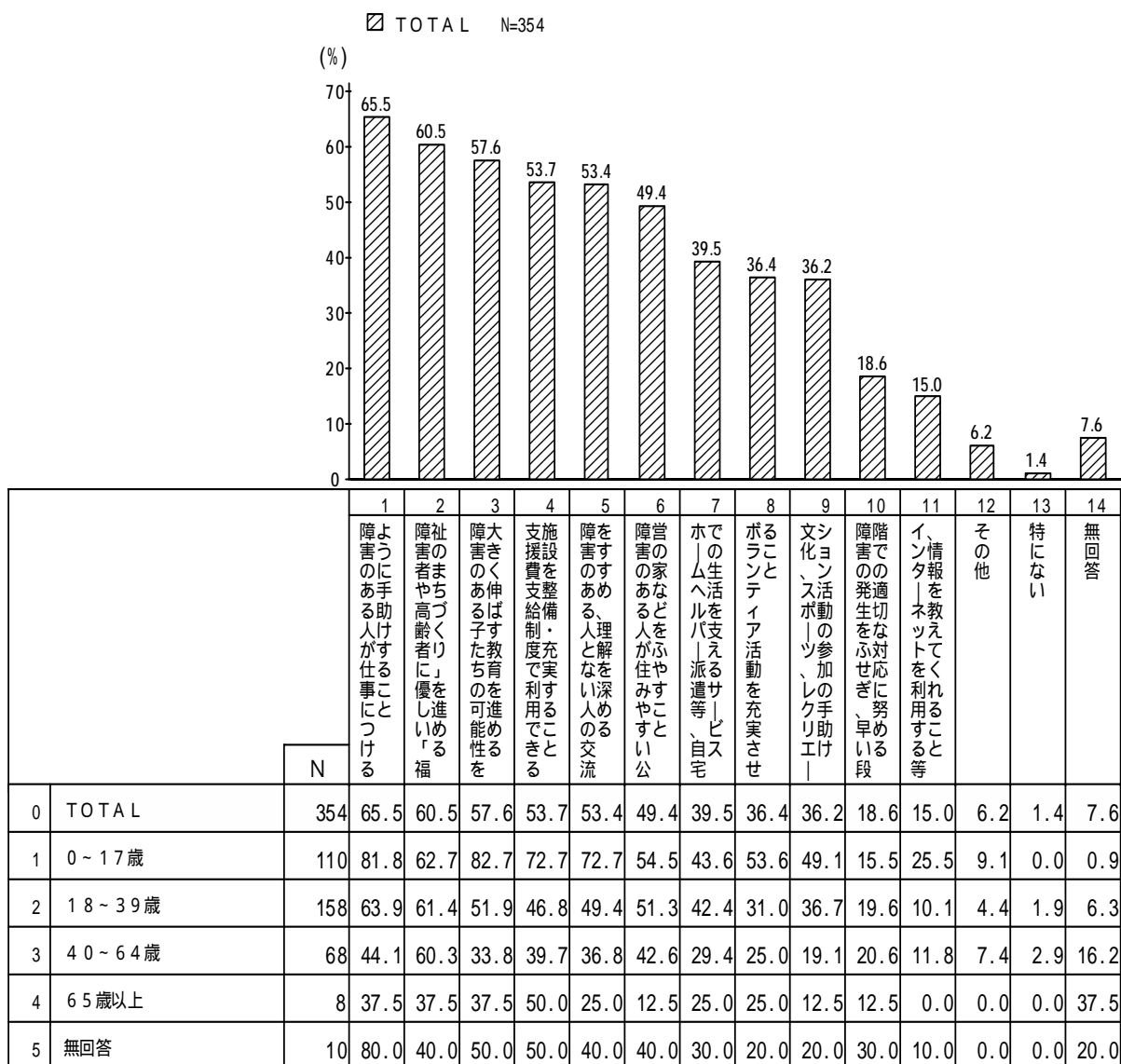
望まれる障害者施策

今後、障害者施策を進めていくにあたって、市は特にどのようなことを充実させていけばよいと思いますか。あてはまるものすべてに をつけてください。
(はいくつでも)

今後、望まれる障害者施策としては、「障害のある人が仕事につけるように手助けすること」をあげる人が 65.5%と最も多く、次いで「障害者や高齢者のやさしい福祉のまちづくりを進めること」(60.5%)、「障害のある子どもたちの可能性を大きく伸ばす教育を進めること」(57.6%)と続いている。

年齢別にみると、18歳未満では「障害のある子どもたちの可能性を大きく伸ばす教育を進めること」(82.7%)と「障害のある人が仕事につけるように手助けすること」(81.8%)をあげる人が特に多く、8割を超えている。

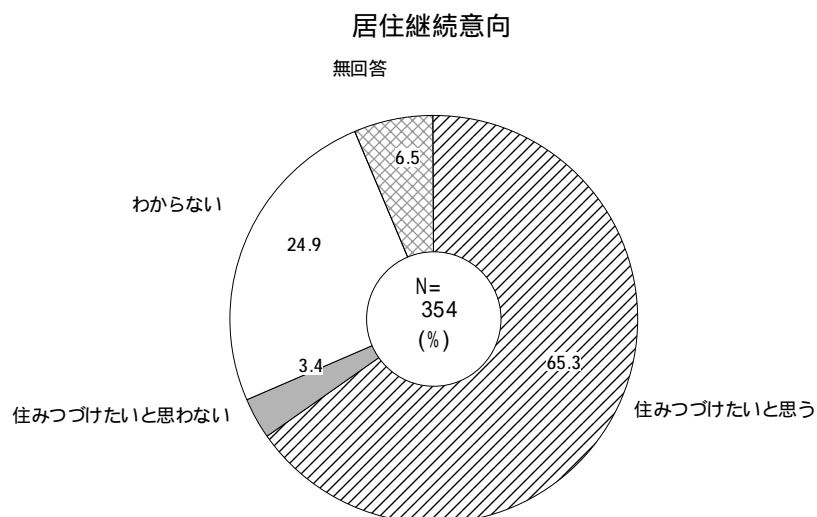
望まれる障害者施策



西東京市への居住継続意向

今後も西東京市に住みつづけたいと思いますか。(は1つ)

今後も西東京市に住み続けたいかを尋ねたところ、65.3%が「住み続けたいと思う」と回答しており、「住み続けたいと思わない」は3.4%にとどまっている。



今後も西東京市に住み続けたいと思う理由は、「現在の住所が西東京市にあるから」が65.8%と最も多く、次いで「親や親せきなど親しい人が近くに住んでいるから」(64.9%)、「交通の便がよいから」(29.9%)と続いている。

